

摂南大学 CEI NEWSLETTER は、2018 年 4 月に設立した摂南大学教育イノベーションセンター（Center for Educational Innovation; CEI）に関するさまざまな情報をお届けする広報紙です。創刊号となる本号では、ミッションごとの実施目標や取り組みの状況、2018 年度のおもな活動実績等について紹介します。

教育イノベーションセンター設立の経緯と目的について（副学長 荻田 喜代一）

中央教育審議会答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」（2018 年 11 月）では、「我が国の高等教育がこれからどう変化していくのか」が明らかにされました。その中に、「高等教育機関がその多様なミッションに基づき、学修者が『何を学び、身に付けることができるのか』を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること」と述べられています。摂南大学では、このような高等教育を全学的に実現することを目的として、2018 年 4 月に、教育イノベーションセンターを設立しました。

本センターは、全学共通教育から PBL(Project-Based Learning) プロジェクトや副専攻課程、または学生スタッフ（Learning Support Team; LST）の養成まで、摂南大学の教育に関する幅広い職務を担当するセンターです。本学では、「いま、摂大の教育（学び）が大きく変わる」のスローガンのもと、教職員が学生たちと協働しながら大胆な教育改革を実行しています。急速な変化を続ける社会の中で、学生たちがそれに対応し、たくましく生きていくためには何が必要か。それらを考えながら、本センターを中心に今後もさらなる教育改革を進めてまいります。

教育イノベーションセンターの概要（教務部長 伊藤 譲）

教育イノベーションセンターは、摂南大学における教育の質保証、教育能力の開発および向上、教育プログラムの開発およびその支援の取り組みを実行し、教育改革を進めるための組織として開設しました。本センターは、右表のとおり、石井三恵センター長、柳沢学、久保貞也両副センター長をはじめとする16名のスタッフからなる組織です。

これらスタッフで、①共通教育の策定・運営、②PBL プロジェクトの企画・運営、③副専攻課程の企画・運営、④高大連携（接続）教育の企画・運営、⑤キャリア教育の企画・運営、⑥学修支援を行う学生スタッフの養成、⑦FD・SD 研修会の企画・運営の7つのミッションに基づく業務を行っています。

今年度は、開設初年度ですが、教務委員会、FD委員会などと連携を取り、全学の視点から教育改革のエンジンとして運営していきます。

■ 教育イノベーションセンター運営委員会 構成員

役 職	氏 名	所 属
センター長	石井 三恵	教育イノベーションセンター 教授
副センター長	柳沢 学	理工学部 教授
	久保 貞也	経営学部 准教授
センター員	大塚 正人	薬学部 教授
	藤林 真美	スポーツ振興センター 准教授
センター教育職員	寺内 睦博	教育イノベーションセンター 准教授
	水野 武	教育イノベーションセンター 講師
	上野山裕士	教育イノベーションセンター 講師
センター運営委員	熊野 知司	理工学部 教授
	林田 敏子	外国語学部 教授
	鶴坂 貴恵	経営学部 教授
	米山 雅紀	薬学部 准教授
	河原 匡見	法学部 教授
	持永 政人	経済学部 教授
	稲垣 美紀	看護学部 准教授
教務部長	伊藤 譲	理工学部 教授

ミッションごとの取り組み目標と実施状況

①共通教育の策定・運営

取り組み目標：教務委員会と連携し共通教育科目の再構築を目指す。

実施状況：共通教育科目のうち、情報リテラシー関連科目とキャリア関連科目について、各学科における科目名、授業内容などに関する提言を行いました。

②PBL プロジェクトの企画・運営

取り組み目標：今年度実施プロジェクトの完遂とともに、プロジェクト担当教員への運営状況のヒアリングおよび履修学生の学びの傾向分析を行う。

実施状況：今年度は 295 名の学生が 14 のプロジェクトに分かれ、活発な活動を展開しました。また、担当教員にヒアリングを実施し、プロジェクトごとの傾向を整理しました。さらに、履修学生の自己効力感を測定するアセスメントを実施し、客観評価ができる指標を導入しました。2019 年度は 13 プロジェクト、202 名（予定）の履修学生で開講します。今後もさらなる教育効果の向上を目指します。

③副専攻課程の企画・運営

取り組み目標：ソーシャル・イノベーション副専攻 1 期生の修了に向けた準備と継続的实施のための改善を行う。

実施状況：本副専攻は今年度に初めて修了見込者を出し、現段階で 24 名の修了見込者が確定しています。これに加え、これまでの分析および今後の改善方策の検討を行っています。これまでの履修者の変遷を参考にして、学生にとってより履修しやすくなるように履修ガイダンス等でのさらなる工夫を予定しています。

④高大連携（接続）教育の企画・運営

取り組み目標：中高大連携プログラムの教育内容・方法の工夫と改善、中高生とその保護者に理解しやすい取り組みを目指す。

実施状況：保護者を対象とした学園内大学の説明会の開催および中高大連携プログラムの内容改善と講師派遣への協力に取り組みました。

⑤キャリア教育の企画・運営

取り組み目標：‘Learning How to Learn’ の浸透を目指す。

実施状況：キャリアデザインやインターンシップなどのキャリア形成科目を通じて、在籍時から「学ぶことを通じて学び方を学ぶ」という考えの浸透を目指して活動しました。これにより将来の選択肢の実現可能性を高めることを目的としています。

⑥学修支援を行う学生スタッフの養成

取り組み目標：学修支援を行う学生スタッフ（Learning Support Team；LST）のファシリテーション能力の養成を目指す。

実施状況：LST 学生（約 60 名）を組織し、学修キックオフ・セミナー、大学教養入門等の講義や各種研修、イベントで活動し、さまざまな学修支援活動に取り組みとともに、学生スタッフのファシリテーション能力の向上を図りました。

⑦FD・SD研修会の企画・運営

取り組み目標：教育の質をさらに高めるために、教員およびスタッフの能力向上のための研修等を企画・運営する。

実施状況：アクティブ・ラーニングのためのさまざまな手法とファシリテーションを学ぶ会場として ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）ワークショップを開催しました。また、カードゲームを通じて SDGs（持続可能な開発目標）に定められた 17 の目標とその達成方法について理解することを目的としたワークショップを開催しました。さらに、アクティブ・ラーニングが目指す方向性について考える機会とする外部講師によるフォーラムを開催しました。



グループワークを行う学生たち

2018年度のおもな活動実績

●アクティブ・ラーニング入学式

4月4日、2018年度摂南大学入学宣誓式を大阪城ホールで挙行了しました。新入生歓迎イベントでは、劇団「音楽座ミュージカル」とコラボして、新入生が表現力と主体性を学ぶ舞台メソッドであるシアターラーニング形式による「アクティブ・ラーニング」を4,000人を超える新入生、保護者、在学生、教職員で実施しました。



●学修キックオフ・セミナー

4月5～7日、寝屋川キャンパスで新入生対象の「学修キックオフ・セミナー」を初めて実施しました。セミナーでは、お互いの持ち味を知るためのワークやそれぞれのメンバーの長所を話し合い、自己理解を深めるディスカッションなどが行われ、新入生にとって学部の垣根を越えたチーム・ビルディングの重要性を学ぶよい機会となりました。なお、このセミナーの企画・運営は在学生が担当しており、新入生を指導することで自らのプレゼンテーション能力やファシリテーションスキルを身につけることも目的としています。



●大学教養入門

学部の枠を越えた新たな教養入門科目である「大学教養入門」を開講しました。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことであり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。受講生にとって、教養の入門書を用いてABD(アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につける機会となりました。



●2030SDGs ゲーム 体験ワークショップ

8月25日、CEI開設記念市民講座として、カードゲームを通じてSDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)に定められた17の目標とその達成方法について理解することを目的としたワークショップを開催しました。ワークショップには学内外から約40名が参加し、SDGsという言葉聞いたことがない人やあまり興味・関心がない人も、ゲームの面白さにより知らず知らずのうちに熱中し、最後には参加者全体でSDGsについて考え、理解を深めました。



●平成30年度ABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)実践研修

10月27日、寝屋川キャンパスにおいて、アクティブ・ラーナー(学生)の立場に立ってABDを体験し、ともにアクティブ・ラーニングのためのさまざまな手法とファシリテーションを学び合う場としました。研修会には学内外から50名超が参加し、ABDの手法と教育効果のみならず、アクティブ・ラーニングについて意見交換を行う有意義な場となりました。



●教育イノベーションフォーラム ～アクティブ・ラーニング、その先へ～

11月10日、常翔学園OITホールにおいて、CEI開設記念教育イノベーションフォーラムを開催しました。フォーラムでは、独立行政法人日本学術振興会顧問・学術情報分析センター所長、文部科学省参与（高大接続改革担当）、内閣府人工知能技術戦略会議議長である安西祐一郎先生をお招きし、「高大接続と大学改革 現状と展望」と題してご講演をいただきました。フォーラムには学内外から約250名が参加し、アクティブ・ラーニングが目指す方向性について考える機会となりました。



●平成30年度第1回教育イノベーション研究会

11月17日、OIT梅田タワーにおいて、第1回教育イノベーション研究会を開催しました。研究会では、一般演題として、アクティブ・ラーニング、キャリア教育、PBLなど多様なテーマで11組の大学教職員、学生による報告のほか、追手門学院大学大学院経営・経済学研究科教授の池田輝政先生に「FDのマインドセット1/x：知的好奇心をもたせるコンテンツ準備」と題して基調講演をいただきました。研究会には42名が参加し、一般演題、基調講演の内容を受け、研究会での学びとアクティブ・ラーニングのこれからについて、意見交換を行いました。



教育イノベーションセンターのこれからの取り組みについて(教育イノベーションセンター長 石井三恵)

21世紀に入って、社会の変化やそれに付随する個人のライフスタイルの変化から「予測困難な時代」、つまり「VUCAの時代」と言われるようになりました。「Volatility(変動性)」、「Uncertainty(不確実性)」、「Complexity(複雑性)」、「Ambiguity(曖昧性)」という4つのキーワードの頭文字から取ったことばです。大人でも不安を感じる社会へ学生たちは巣立っていきます。当然のことながら、この社会へ適応し、さらには「生き抜く力」が必要です。高等教育でその力を身につけるためには既存の学びに満足することなく、高等教育自体も新しい学びを学修者である学生と共に学び、創り上げていく時代になりました。

本センターでは、このNEWSLETTERに示した通り、学

修者の自主性と主体性を生み出すためのアクティブ・ラーニングを取り入れた授業や自らの力で学び方を学んでいく(Learning How to Learn)授業を開発することによって対応し、実践しています。また、学修者である学生の連携を図り、多様な学生との交流の機会を設けています。

2018年度はシンポジウムや研究会を開催し、その意義を社会に問いかけました。2019年度は本センターのミッションに則り、新たな授業開発や学生主体の活動を本学発信の形で進めていきます。

本センターの活動を見守りつつ、ご意見を賜ることができたら幸いです。

編集後記

このたび、2018年4月に開設された摂南大学教育イノベーションセンターの取り組みやCEIが掲げる7つのミッションの実施状況を記した「摂南大学CEI NEWSLETTER」創刊号を無事に発行することができました。ひとえに、本センターの運営、イベントの実施にご協力をいただいております皆様のおかげと存じます。心よりの御礼を申し上げます。

CEIでは、今後も摂南大学の教育改革の推進に取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(文責：教育イノベーションセンター 上野山裕士)

摂南大学 CEI NEWSLETTER Issue.1 創刊号 2019.3.15
発行元：摂南大学教育イノベーションセンター
WEB サイト：<https://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/cei.html>
メールアドレス：cei@atf.setsunan.ac.jp

Smart and Human
摂南大学